

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

VOL. 14

2012.9

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



01 誌上ゼミ

「震災」から見つめ直す家族と人生
3・11より一年半、今こそ考えたい
私・家族・社会の関わり

05 学問へのいざない

「音楽家」のあるべき姿を学ぶ
「英語教育」を実践から学ぶ

07 特集

もう一つの学ぶ道「大学院」
気になる「院生ライフ」座談会

09 ACTION

拡がっています！
MG×学外コラボレーション

11 My way M g way

サークル紹介

14 CAMPUS NEWS

15 学長エッセイ

「震災」から見つめ直す家族と人生

3・11より一年半、今こそ考えたい私・家族・社会の関わり

体験を通して何を学び、どう生かしていくか

今まで当たり前だったものが
いかに大切かを実感させられた

浅野 私たちの「家族社会学研究室」は、
私たち自身の家族や人生と、社会との
関係を学ぶゼミです。日常生活における
様々な体験や自分を取り巻く地域社会
をフィールドに、多彩な方法で調査研究
を行っています。

研究対象は文献や理論とあわせて、
私たちにとって最も身近な生身の人間で
あり生き方ですから、誰もが自分自身

と重ね合わせながら考えていくことがで
きます。

現在皆さんは、それぞれ異なるテーマ
に則して研究を進めています。どんな
テーマにも少なからず関わりを持つてくる
のが「東日本大震災」ではないでしょうか。
石井さんは、震災の経験や踏まえた家
族や地域のあり方を研究していますね。

石井 はい。震災時はライフラインが遮断
され、物も情報も中々手に入らない状況
でした。そんな中、どこに行けば水がも
らえるとか、どここの店が開いているといっ



各自が研究成果を発表し、それぞれの目線で議論することでより視野が広がります。

生活文化デザイン学科
(家族社会学)

浅野 富美枝
教授

「家族社会学研究室」の皆さん
石井里菜さん、小松麻美さん、森谷知美さん、
越前谷彩季さん、佐々木友理恵さん、早坂愛さん、
野坂華子さん、内海佳奈さん、安倍綾菜さん、
菊地沙希さん、阿部景子さん、大泉明日香さん、





浅野 富美枝 教授

た情報を近所づつに聞いたり、お年寄り世帯に若い人たちが声掛けしているのを見たりして、人の優しさや温かさ、そして普段の何気ない挨拶から育まれた地域コミュニティの大切さを実感しました。

自分が感じたこと以外にも、震災以来地域の大切さが見直されているのではないかと考え、避難所や仮設住宅における「近所力」活用例を調査中です。

年々薄れつつあると言われる地域のつながりですが、うまく活用すれば今後の復旧・復興はもちろん、全国で多発している痛ましい事件を未然に防ぐこともできるのではないかと考えています。

浅野 震災の経験は、皆さん自身だけでなく、家族や生き方、ものの考え方に至



森谷 知美さん



小松 麻美さん



石井 里菜さん

るまで大きな影響を与えました。小松さんは通信の重要性に着目しましたね。

小松 震災直後は、通信手段が遮断され、たくさんの方が家族と連絡がとれない不安な日々を過ごしました。震災のような非常時こそ、家族の声を聞くことで心が安定することを実感し、さまざまな調査を行っています。

通信各社では、音声ファイルを活用したメールシステムを導入するそうです。万が一の場合は家族間で連絡を取り合うことができ、安否確認はもちろん、生の声を聞くことでお互いに安心できるというものです。災害時だけでなく、子どもの安全確保など平時にも活用できるのではないかと期待しています。

浅野 子どもが携帯電話を持つことについては、デメリットばかりが強調されがちです。しかし、震災をきっかけに、親と子、両者にとってメリットになる活用法が生み出されつつあるということでしょう。

一般に取り上げられない話題を 学生らしい視点で掘り起こす

浅野 森谷さんは、震災時における女子大生について研究されていますね。どんな思いでテーマを決めたのですか。

森谷 実は、震災について新聞やインターネットを調べた際、高齢者や子どもなど社会的弱者と呼ばれる人々の記事はほとんど見当たらないことに気付いたのです。陸前高田市で映画づくりに励む女子大生をはじめ、被災地のために活躍している人は大勢いるはず。彼女たちの貴重な活動を同世代の私が研究することで、一人でも多くの人に知ってもらい、何かのきっかけになればと考えました。

最終的にはそうした活動の研究だけでなく、子どもでも社会人でもない女子大生ならではの心理状態やTPOの変化まで取りまとめたと思います。研究材料が



少なく、大変ですが、根気よく頑張ります。
浅野 確かに震災後、女子大生に焦点を当てた報道や記事はあまり見かけませんね。そういう意味でも、震災時の女子大生の実態を明らかにすることは、とても重要だと思いますよ。

一方で、越前谷さんは震災でより浮き彫りにされた問題を取り上げていますね。

越前谷 はい。私は「性別役割分業」について、避難所やボランティア活動における実例をもとに研究しています。

ある避難所では、リーダーの多くが男性だったため、女性の要望が反映されにくかったそうです。また、女性だからと日中食事作りを任せられ、大変な思いをした方もいました。私が参加したボランティアも、女性は子どもの世話、男性は力仕事と明確に分けられました。

女性の社会進出に伴い、「男は仕事、女は家庭」という昔ながらの考えは少な

くなったかに見えますが、いまだ多くの人々に性別役割分業の意識が残っていることがわかりました。私は自分が育った環境から、家事労働を男女が協力し合うことで家庭円満になると考えており、今後はさらに調査を重ねるつもりです。

浅野 震災という非日常時でさえ、性別による分業意識が根強かったということですね。

研究の成果を皆で議論しながら お互いに高め合いの心に残る研究を

浅野 ダイレクトに「震災」をテーマにしているとしても、研究のどこかで必ず震災と向き合っていることと思います。佐々木さんはいかがですか。

佐々木 私は「セクシユアル・マイノリテイ」をテーマにしており、今回は性的少数者の避難生活について調べてみました。

避難所では、支援物資の配布からお風

呂、更衣室などあらゆることが性別または家族単位で分けられる場合が多く、見た目と性別が違う人や家族に内緒にしている人にとっては大変な苦痛だったことがわかりました。

現在の日本は性的少数者への理解が少なく、堂々と公言できる環境にありません。震災を経て、地域の大切さに注目が集まっていますが、性的少数者にとって地域が密になるといことは、決して良いことばかりではないと思います。

浅野 つまり、単に昔の地域社会が復活すれば良い、というわけではないということですね。一人一人の人權を大切に「新しい地域社会」が生まれて欲しいと思います。

性的少数者については、皆さんの先輩にあたる内田さんが今も研究を続けておられます。論文の一部が『女たちが動く』に掲載されていますので、ぜひ参考に読んで





早坂愛さん



佐々木友理恵さん



越前谷彩季さん

みてください。早坂さんはどうでしょう。

早坂 はい。私は「無縁社会」をテーマに研究をしています。震災に関わるものではなく、仮設住宅での孤独死を調査しました。

過去の震災と同様、2年目の今年は孤立して亡くなる方が多くなっています。

その中で私が着目したのは、高齢者だけでなく30代から50代の若い世代にも孤独死が見られる点です。仮設暮らしが長引き、心身共に疲れ果てた被災者が多く、今後ますます増加する可能性があります。定期的に声掛けするなど、まわりの人々が丸となって見守ることが必要ではないかと思いました。

浅野 そうですね。震災という困難は、個人や家族だけではとうてい抱えきれません。乗り越えるには、やはり地域や社会が欠かせないということですね。

他の皆さんも、「高齢者」「ワークライフバランス」「性的被害」など、それぞれのテ



今年5月に刊行された「女たちが動く」には、家族社会学研究室OGの内田有美さんによる論文が掲載

ーマに沿ったアプローチで震災との関わりを研究され、いろいろな発見があったのではないのでしょうか。
研究分野が違う人の話を聞くことで、自分のテーマとの意外な接点に気付いたり、新しい知識や考え方を得て視野がぐんと広がる。それがこのゼミの魅力です。卒業まで約半年、思う存分に研究を続けてください。きっと、一生の思い出になると思います。





「音楽家」のあるべき姿を学ぶ

音楽科 及川浩治 准教授

かけがえのない出会いと経験が 音楽家としての自分の原点

今年度よりピアノの専攻実技を担当しています。大学教員は私自身初めての経験ですが、宮城学院はキャンパス全体に自然があふれ、音楽に集中できる素晴らしい環境なので、とてもやりがいを感じます。

私は1995年にピアニストとしてデビューし、現在もお国内外のステージで演奏活動を行っています。幼い頃からピアノに親しみ、高校時代はラグビー部の活動と両立しながらレッスンを重ねました。転機となったのは、大学在学中にブルガリアへ留学する機会を得、そこで「生涯の師」と呼べる先生に出会ったことです。

当時の私は、理論や知識は後回しで、ひたすら感覚的にピアノを弾いていました。しかし、そうではないことを教えてくれたのが先生や仲間たちでした。

私たちが演奏するのは、何百年という歳月を経てなお愛され続ける作品。つまりそれだけ偉大な曲であり、精神的にも哲学的にも深い意味を持っています。大切なのは、作品に対し最上級の敬意を持つこと。そして楽譜を通して作曲家が遺した意思を理解し、音にして伝えるのがピアニスト本来のあるべき姿だということ。この教えは今でも私の胸に深く刻まれています。

作品を熟知し自ら行動することが 夢の実現につながる一歩

素晴らしい出会いと経験は、何にもかえがたい成長の糧です。私が得てきたところが、ピアニストを志す学生の皆さんのため、そして復興へ向かう宮城のために、少しでも役立つことができれば嬉しいです。

どんなに偉大な曲でも、ただ鍵盤を弾くだけでは人を惹きつけることはできません。作品にとことん向き合い、作曲家が番



大事にしたフレーズはどこか、自分で感じ、表現することが大切です。そして、表現する上で自分に足りないものは何かを考え、求め、自ら気づくことができれば、きつと自分らしい音楽を作っていけると思っています。

学生の皆さんは才能豊かで勉強熱心けれど、まだ眠っている能力があるはずで、そこを引き出すのが私の目標です。少人数制ならではの利点を生かし、一人一人の個性を大切にしながら、より楽しく、より実践的な指導を心掛けたと思います。

Profile

及川浩治 准教授 宮城県出身。4歳からピアノを始め 国立音楽大学入学、ブルガリア音楽院留学を経験。ヴィオッティ・ヴァルセージア国際コンクール第1位ほか多数受賞。2012年より現職へ
○信条「求めれば気づきのヒントが必ず用意されている。求めよさらば与えられん。」

私のおすすめ本

ピアノ演奏芸術 ある教育者の手記 (音楽之友社)

ゲンリッヒ・ネイガウス 著/森松皓子 訳

私の「生涯の師」をはじめ、リヒテル、ギレリスといった一流ピアニストを育てた名教授の著書。技巧的なことだけでなく、ピアニストに必要な教養についても深く掘り下げられ、演奏する人はもちろん、単に音楽好きという人も興味深く読める一冊です。



これが学びのツボ!

音楽で大切なのは何を訴えたいかということ。そのためには多彩なジャンルの芸術をはじめ、自然、人、言葉などあらゆるものを肌で感じ、感覚を磨くことが大切です。求める答えやヒントがきっと見つけ出せます。



「英語教育」を実践から学ぶ

英文学科 ジョン・ウィルトシア 准教授



**理論を実践で検証し
教育者に必要なスキルを磨く**

故郷のイギリスで小学校教師を務めた後、日本の学校で長年英語指導に携わってきました。現在は子どもから大人までを対象とした英語教育を専門にしています。日ごろから学生に指導しているのは、「理論」と「実践」からバランスよく学ぶこと。専門書を読み知識を深めたり、学会で研究者の発表を聴くのはもちろん大

切ですが、それだけでは実際の教育現場は成り立ちません。

学んだ理論を、誰に、どんな目的で、どう実践すれば最善なのかを考えると、自分なりの工夫を加えて効果的な学習方法を見つけ出す。これは、私自身の研究目標でもあり、教育者を目指す学生にとって最も重要な経験です。

従って授業では、前期に理論をしっかり学び、後期は小学生に直接英語を教える機会を設けています。プランニングから進行、終了後の反省会まで全てを学生が行い、私はアドバイスをする程度。学生たちはこうした実践を通し、理論だけでは得られない多くのことを学んでいます。

**英語にとことん向き合って
人生をより楽しく豊かに**

私が考える英語教育のポイントは、第二に *Successes* モチベーション継続のために

成功した気分を味わわせること。第二に *Syllabus* 一進度も繰り返すことで自然に体得させること。第三に *Comprehensive Input* 一方的ではなく、理解し易いイン

プットを心掛けること。そして第四に *Time* やはり、時間をかけることです。英語をマスターするには、約3000時間の勉強が必要だと言われています。日本では、高校までの授業を合わせても約900時間で、他の国に比べ圧倒的に少ない。「授業で勉強しても、英語が上達しない」との声も耳にしますが、単純に英語と向き合う時間が足りないだけなのです。

今後は研究内容を、誰もが気軽に取り組める教材づくりに生かしていきたいですね。英語を自由に使えると、楽しさの可能性も格段に広がります。一人でも多くの人に英語の魅力を伝え、使いこなせるようにすることが、私の使命だと思っています。

Profile

ジョン・ウィルトシア 准教授 イギリス出身。母国にて6年間初等教育に携わった経験を持つ。来日後、中学校英語講師、英会話教室経営、宮城大学准教授を経て2010年4月より現職。日本だけでなく各国で、英語教育の教材開発に多数携わる。 ○信条「情熱」

私のおすすめ本

今日から読みます! 英語 100万語 (日本実業出版社)

古川昭夫・河手真理子・酒井邦秀 著

本を読んでたくさんの英語に触れることは、英語力を高める方法の一つ。難解な本を読むのではなく、簡単な本を辞書をひかずに読むことで、モチベーションを保ちながら楽しく続けられます。英語が苦手な人もチャレンジしたくなる実用的な本です。



これが学びのツボ!

イギリスと日本の教育の大きな違いはクリエイティビティ=創造性。先生が丁寧に教える日本と違い、イギリスは自分で考える力を育みます。実際に教える経験を通し、学生の皆さんも自分なりの創造性を発揮して今後に生かして欲しいですね。

研究を通して自分を高め、人生を豊かに。



もう一つの学ぶ道「大学院」

気になる“院生ライフ”座談会

学生にとって最大の関心事である卒業後の進路。その選択肢の一つとして近年注目を集めるのが大学院です。本学大学院は高度な専門性を身につけるだけでなく、知的探究心とチャレンジ精神にあふれ、多様化する社会で活躍できる人材教育を行っています。今回は、在学中の7名に集まってもらい、研究の魅力や今後の目標などを語っていただきました。



英語・英米文学専攻
進行役の鈴木雅之教授

大学院進学のかきつけ

鈴木教授 これまで大学院といえば「敷居が高い」と敬遠されがちでしたが、近年は公務員や企業への就職と並び、スタンダードな進路先として認識されつつありますね。

伊藤 私はとにかく英語が好きで、英語を生かした仕事がしたいと考えていました。大学院でよりアカデミックな英語力をつければ将来の可能性が広がる、という先輩方のアドバイスに背中を押され、進学を決めました。現在は教員を目指しています。



英語・英米文学専攻2年
伊藤睦さん

畑山 一つの資料をさまざまな視点から考察する楽しさを知り、卒業後も自分の研究を続けたい、というシンプルな思いから進

学の道を選びました。

藤田 学部時代に海外研修を経験し、「いつか日本語教師として外国で活躍したい」と思ったのがきっかけで進学しました。修士資格を得ることで、自分自身の幅が広がり、夢へのステップアップになると考えました。



日本語・日本文学専攻2年
藤田知里さん

佐々木 学部時代、県内の小学校に残された資料を元に、戦争の時代について研究してきました。これらの資料はいつ捨てられるかわからない危機的状況にあり、「勉強できるのは今だけ」と大学院で研究を続けることにしました。

藤本 私は巨理町で長年栄養士として働いてきました。30年以上に渡る自分の実績を何らかの形でまとめたいという思いから大

学院に進みました。そして研究活動を通して、東日本大震災で大きな被害を受けた巨理町の人々に、少しでも役に立つことができればと考えています。



健康栄養学専攻2年
藤本由紀子さん

自分らしい学びの深化へ

鈴木教授 専攻は違っても、お互いに啓発されることが大いにあると思います。皆さんの研究内容や研究の幅を広げる方法などを聞かせてください。

伊藤 私はアリス・ウォーカーについて研究しています。彼女のエッセイや、先行文献を読んで学ぶほか、他の大学院生との交流を通してモチベーションを高めています。教職課程の勉強と同時進行のため大変ですが、と



でも充実した毎日です。

鈴木 私は統語論を研究しています。言語学の中でも超理論的な部分なので、研究方法はひたすら英語の本を読むこと。ただ、時には学外に出て他の研究者の発表を聞くことも大切な学びの機会だと思っています。良い意味でとても刺激になりますね。



英語・英米文学専攻2年
鈴木舞子さん

鹿内 学部時代から心理学を専攻し、「単届さ」について研究中です。先行研究が全くないため、周辺分野の論文を参考にしていきます。私も研究意欲向上のため、学会への参加や発表など、自分から積極的に行動するよう心がけています。

畑山 日本服飾史の分野で、夏目漱石の服飾描写を研究しています。例えば『坊ちや



生活文化デザイン専攻2年
畑山杏那さん

ん』の「赤シャツ」に漱石のどんな思想が隠れているのか、当時の時代背景と合わせて考えるものです。学会では自分の知識を深め、質の高い研究につながるよう、どんな発表も興味を持って聴くようにしています。

藤本 仮設住宅で暮らす皆さんが「食を通して心も体も豊かになる」ための研究に重点を置いています。料理教室を開いたり、アンケートでニーズの変化を確認したり、理論だけでなく実践を通したタイムリーな支援のあり方を考えていきたいですね。

修了後の自分、そして未来へ

鈴木教授 大学院はあくまでも学びの通過点。そして、自分らしいキャリアデザイン

の可能性を広げる場でもあります。ぜひ、将来の展望などを伺えますか。

藤田 日本語教師は実績重視の世界。私はこの秋から二年間休学し、ロシアで実践経験を積んでくる予定です。修士論文の研究も並行してなので大変ですが、全てが自分にプラスになると思い頑張るつもりです。



人間文化学専攻1年
鹿内美苺さん

鹿内 とにかく卒業まで研究を頑張る、その一言です。その後は就職することになりますが、研究を続けたい思いが強ければ、博士課程へ進む道もまた選択肢の一つだと考えています。

鈴木 私は自分の研究を成し遂げること、そして将来的には日本語教師になるのが目

標です。経験値を上げるためのボランティア活動など、専攻分野を越えたさまざまな勉強を続けていきたいと思っています。



人間文化学専攻1年
佐々木優実さん

佐々木 学校資料を借用するにあたり、まずはアポイントを入れ、次は挨拶に伺って…という具合に、社会人としての基礎を学んできました。今後も研究のプロセスで多くの人と触れ合い、どんな仕事もこなせる自信を身につけたいですね。

藤本 食の復興活動を自分なりの形で伝えていきたいですね。意欲あふれる皆さんと共に学ぶことはとても楽しく、毎日が新鮮な感動の連続です。この大学院に入って良かったと心から思っています。

若手能楽師にきく 「日本文学科特別講座」

代々仙台伊達藩お抱え能楽師を務めた喜多流職分家佐藤家の12代目佐藤寛泰さんをお招きし、特別講座が行われました。学生が、さらびやかながらも重さ10キロに及ぶ舞台衣装やふだん間近で見ることもかなわないう能面を身につけ、所作の難しさを体験したり、「清経」の一節を佐藤さんと共に謡ったりと、客席から舞台を鑑賞しているだけでは味わえない、能楽の奥深い世界を学びました。



Action

広がっています! MG×学外コラボレーション

学びの場は机の上、本の中だけとは限りません。
見て、聞いて、体験して初めて分かることがたくさんあります。
キャンパスの内外で今、学生たちと様々な人々とのコラボレーションが広がりをを見せています。
感じて学んだことを、今度は自分たちで学外に発信していく…
そんな多彩なコラボレーションを5つご紹介します。



音楽科 ワークショップとミニコンサート

本学音楽学会、国際文化学会などの共同企画により「ガムランと舞踊／ワークショップとミニコンサート」バリ島の風を感じて」を開催しました。ワークショップではガムランの主要な楽器を体験。続くミニコンサートでは100名を超える観客がガムラングループ「サリ・メカール」の華麗な演奏と舞踊を楽しみました。



美しい日本語の話し方教室

あなたの言葉は、どのくらい相手に届いていますか？
どんな劇場でも台詞がしっかり伝わる劇団四季の役者陣に、その秘密を教わりました。秘訣は「母音法」と呼ばれるメソッド。例えば「おはようございます」は「おおおうおあいあう」のように、母音を丁寧に発声することで、よりはっきりと伝わるのが分かります。参加者は「言葉の響きがちがう」「これなら話すことに自信が持てそう」など「母音法」に取り組んでいました。



吉永小百合 原爆詩朗読会

名取市文化会館で「吉永小百合 原爆詩朗読会」が開催され、大学生らも参加・出演しました。これは被災地の子供達を応援し、平和への祈りを語り継ぐために企画されたものです。当日は日向地香里さん（名取市在住、日本文学科3年）の司会進行で進められ、第一部では音楽科有志の合唱が披露された後、第二部で吉永小百合さんのお話と原爆詩の朗読。そして参加者全員で「折り鶴」（作詞・作曲梅原司平）を合唱すると、会場は感動と祈りに包まれました。



フィンランドのママの味を伝える Voi silmä pullia(バターの日)

フィンランドの子どもたちが大好きな味、<i>Voisilmä pullia</i>（バターの目）。フィンランド研修で、訪問した学校でいただいたその味を、児童教育学科磯部ゼミ4年生らが、自分達の手で再現しました。子どもにも優しいフィンランドの文化と、このママの味を多くの人に知って欲しいとベーカリー「穂が咲く」（0222-21812323）とコラボして販売することになりました。商品には、フィンランドの子育ての文化を記した手づくりカードをそえる予定です。





ピアノ・経営・大学院。
自立してやりたいことをやる。
そのために人生勉強です。

[取材]

広報室インターンスタッフ

安住 絵里 (日本文学科4年)

齋藤 綾香 (日本文学科4年)

——演奏家として活躍されていますが、ピアノとの出会いはいつごろですか？

4才からピアノを習い、宮城学院女子大学音楽科に進学しました。演奏家としての出発点は大学4年生の時ですね。定期演奏会で学生の代表として仙台フィルハーモニー管弦楽団とラフマニノフのコンチェルトを演奏させていただいたことが、すべての始まりだったように思います。

——演奏会のプロデュースをする会社も経営されていますが、起業のきっかけは？

2009年に右腕の軟骨に腫瘍ができていたことが分かりました。なぜ、腕なのか…と泣きたくまりました。ピアノが弾けなくなっただけでもやはり音楽に関われる仕事がないかと考え、入院前に今の会社を立ち上げたのです。元々、演奏会の企画などに興味もありましたし、音楽会、企業の式典などのイベント、音楽療法、音楽スクールなどの企画・運営に加えて、最近では音楽葬にも力を入れています。腫瘍が良性で、今も演奏が続けられていることは本当に幸に思っています。



前向きにチャレンジする人生。魅力的な生き方に憧れます。



各地でピアノのリサイタルも行っています。音楽をやっていると良かったと思う瞬間です。



音楽で大切な人を送り出す。音楽葬というジャンルにチャレンジしています。

——現在は大学院にも通われていると。

会社設立3年で経営が軌道に乗ってきたときに、東日本大震災が起きました。仕事が進学のために家を出たことなど、子供2人が進学のために家を出たことなどが重なり、心がガランとしたのです。その頃に宮城大学で経営戦略の講座が開かれていることを知り、受講したところ、もともと本格的に学びたいと思い大学院を受験しました。

若い学生さんと共に、半導体工場の生産ラインを見学したり、マーケティングや経営戦略について勉強しています。日々、新しい刺激を受けることができず。ピアノしかやっていかなかったら、社会や経営の大変さが分からず、世間知らずのままだったと思いますね。

——自己実現のために一番大切なことは何ですか？

何かやりたいことが見つかったら、それに携わっている人に会って色々聞いて、ど

うしたら良いかを考えることが必要です。まずは勇気を出して、そのための一歩を踏み出すことが大切なのではないでしょうか。特に学生の皆さんは若いのですから、失敗してもやり直せます。私も病気が震災を経て、いまの自分があります。経験こそが人を成長させてくれます。

もう一つ大切なのは出会いのアンテナを張っておくことですね。

——演奏家、経営者、大学院生と様々な顔をお持ちですが、どんな時が一番充実していますか？

どれも楽しく、やりがいを持って取り組んでいます。今の自分に満足しているわけではありません。自分の中に引き出しを沢山作り、インベーションを起こすために大学院で学んでいます。

若い皆さんには、自分のやりたいことをやる人生にするためのチャレンジと努力を精一杯して欲しいですね。そのために女性も精神的・経済的自立をすることが重要だと思います。

株式会社 エミューズ

宮城県柴田郡柴田町船岡上大原20-1
TEL 080-3199-5507
http://www.etmuse.com/

Profile

五野井 美都子さん

1989年3月 学芸学部音楽科ピアノ専攻卒。在学中、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。卒業後、コンクール入選を重ね、名手たちの共演、子供たちへの音楽普及活動や若手音楽家のコンサートプロデュースを行う。2009年2月株式会社 エミューズ設立。ウェディング・レセプション、企業パーティー等の演出企画および運営を行っている。

サークル紹介 01

小っちゃん種の家

- 部員数：18名
- 活動日：不定期（主に土・日）
- 活動場所：セツ森希望の家（在宅心身障がい者施設）

人と関わることで自分の成長を実感。

月1回のペースで大和町にある「セツ森希望の家」へ伺い、一泊二日のボランティアを行っています。ひな祭りやクリスマスなど、季節に応じたレクリエーション運営のお手伝いを通し、利用者や家族のみなさんと交流するのはとても楽しいですよ。

施設の方や他大学のボランティアサークルをはじめ、子どもから大人まで幅広い世代の人と関わることで、学ぶことが多く、視野も広がり、自分自身の成長につながると思います。

もっと気軽に、ボランティアへの一歩を。

ボランティアというといふ難しく考えがちですが、実は“いつでも誰でも気軽にできる”ということを知って欲しいですね。

主に土日を利用した活動なので、平日は他のサークルに入っている方も大歓迎です。初めての方も参加しやすい日帰りのボランティア活動も予定しています。今だからこそ、素晴らしい経験を積んで、学生時代をより有意義に過ごしましょう！



人の社会に役立つ
“心の種”を育てよう。



みんな子供と
関わるのが大好き！



部長
齊藤美咲さん
(発達臨床学科3年)

サークル紹介 02

スカッシュサークル

- 部員数：(約) 40名
- 活動日：土・日曜日
- 活動場所：キッツスポーツスクエアせんだい

スタートラインはみんな初心者。

今までと違うスポーツをしたい、何か新しいことにチャレンジしたい、そんな方におすすめなのが関東や関西で人気のスカッシュです。東北では私たちと東北大学のみが活動しており、毎週土・日に専用コートで合同練習を行っています。

ほとんどの人が大学から始めるため、最初は誰もが初心者。先輩からレッスンを受れたり、仲間同士で打ち合ったり、自分のペースで頑張っています。お花見や歓送迎会、夏の合宿など年間行事も盛りだくさんで、笑顔が絶えないサークルです。

競技として、趣味として、それぞれに魅力

四方が壁に囲まれたコートでラリーをするスカッシュは、全身を使う有酸素運動なので、健康でバランスの良い体づくりに最適なんです。もちろん競技として熱心に取り組むメンバーも多く、インカレなどの大会に出場して技を磨いています。

本格派から健康づくりまで、楽しみ方は自由自在。ぜひ一緒に爽やかな汗を流しませんか。



目指せ！
インカレ団体戦勝利。



学祭では名物の
「スカッシュ」を提供！



部長
千葉美佳さん
(食品栄養学科2年)

就活に向けたメイク講座

第一印象を良くするには？今のままのメイクでいいの？こんな疑問や不安を持つ就職活動中の学生のために、資生堂美容部員の方を講師にお招きし、「就活メイク講座」を実施しました。就活中の大学3、4年生を中心に40名の学生が参加。ポイントは「ナチュラルで時間をかけ



宮城学院にまた新たなシーンが加わります！ 〜新学生寮着工へ〜

2013年春の完成に向け、新学生寮の建設が着々と進行中です。閑静な住宅街に囲まれた、見晴らしの良い桜ヶ丘2丁目の高台にあり、キャンパスまでの所要時間は徒歩約12分、自転車5分。宮城生協桜ヶ丘店も徒歩1分と通学や買い物にも便利な環境です。全室、バス・トイレ・家具・LAN+TV端子付きと充実した設備の個室で、学びに集



中できるプライベート空間が確保できます。また、明るく開放的な共有リビング・ダイニング・キッチンでは、自習や学習会、日曜などには自由に調理や食事会なども。開放的な共用空間で友人たちとの語り合いが楽しめます。一人暮らしの寂しさや不安がないっえ、最新セキュリティと寮職員が24時間常駐するなど安全にも配慮されています。

f 公式 facebook ページ誕生! <http://www.facebook.com/mgu.ac.jp>

タイムリーな情報発信とグローバルな交流の場を目指し、宮城学院女子大学公式 facebook ページが誕生致しました。ぜひ「いいね!」をクリックしていただき、国内外を問わず交流の場としてご利用下さい。また、災害時には緊急連絡ページとして大学から情報を発信致します。



編集後記

もう9月になるというのに、まだまだ暑い日が続いています。8月末には震度5の大きな余震もありました。震災からの復興は緒についたばかりです。しかし、誌面でもお知らせしたように、本学では新学生寮の建設をはじめ、新たな学び、新たな取り組みが始まっています。夏には昨年引き続き小学生向けのサマーカレッジを、また秋には本学初の試みとして山形は遊学館を会場に年齢・世代を超えて女性たちがこれからの人生をどう切り拓いていくかをテーマにした連続セミナーを開催しました。大学は「大いに学ぶ」ところです。そして学びの道に終わりはありません。私たちもまた、さまざまな困難から学び、歩みを進めていきたいと思えます。

(M・F)



Letter Essay

札幌に蒔かれた種 ―宮城学院の精神を訪ねて(3)―

“Boys, be ambitious” というクラーク博士の言葉は、明治期のお雇い外国人が残した言葉の中で、もっとも有名なものだろう。そのクラークの影響下、札幌農学校(北海道大学の前身)の1期生15名は、キリスト教信仰を誓って署名をした。「札幌バンド」の誕生である。博士が去った後に内村鑑三や新渡戸稲造など2期生が入学し、バンドに加わった。

内村鑑三は、「不敬事件」を起こした人間として教科書にも載っている。第一高等中学校(東京大学教養学部の前身)で行われた御真影拝謁の際に、天皇を神として最敬礼することを潔しとせず、軽く頭を下げるに止めた。しかし、それが問題視されて学校を追われ、『萬朝報』や『聖書の研究』などを拠点に、言論界で活躍した。日露戦争の際の非戦論は、その例である。

新渡戸稲造は、第一高等学校(東京大学教養学部の前身)の校長、東京帝国大学の植民政策講座教授、国際連盟事務次長などを務め、「太平洋の橋たらん」として日米開戦回避に努力した。東京女子大学の初代学長として、女子教育にも力を注いだ。

この二人に共通したものは、戦争回避の努力に見られる「平和の希求」とともに、「自由の希求」である。札幌に学んだ二人は、若き日に神を覚えて、アメリカ東海岸で学んだ。主流派キリスト教会の在り方に疑問を持ち、内村は「無教会」を創始し、新渡戸は「クエーカー」の信者となった。いずれも、儀式的なものを避け、専門の聖職者(牧師など)を持たない「平信徒主義」の宗派である。この二人の下からは、多くの逸材が育った。その中には、南原繁や矢内原忠雄もいる。二人は共に、太平洋戦争後の日本の民主化を東京大学総長として支え、平和国家日本の礎を築いた。

宮城学院女子大学 学長 海野 道郎

